

八代山古墳群 6号墳確認調査報告書



調査地遠景（北から）

平成25年(2013年)

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯

姫路市八代宮前町1021番7において、KDDI株式会社による携帯電話無線基地局の建設工事が計画された。当該地には、周知の埋蔵文化財包蔵地である八代山古墳群6号墳が所在する。(図1)。

このことから、平成25年(2013年)8月6日に3ヶ所の調査区を設定して確認調査を実施した。調査区名は1~3区とした(図3)。

2. 調査地の位置と周辺の遺跡

遺跡が所在する八代山は、八丈岩山から南東に派生する支尾根の通称である。主尾根を芝崎山、さらに南東に派生する支尾根を東光寺山と呼称している。

山中には、7基の古墳の存在が周知されている。このうち、八代山古墳群5号墳・6号墳は、昭和26年(1951年)に発掘調査が実施され、箱式石棺の中から、頭蓋骨の一部とともに珠文鏡、鉄剣等の副葬品が出土した。また、東光寺山古墳は主体部が箱式石棺であったことが知られている。

このほか、山頂から南へ下った尾根筋では、矢内澄氏、加藤史郎氏などにより、遺物の表採や、円筒埴輪列の確認がなされている(図1-A・B・C・D)。このうちA地点では、砂防ダム工事に伴う掘削による2次的な遺物の集積がみられ、5世紀末から6世紀初頭の有蓋高杯や円筒埴輪片、形象埴輪片がみつかりっている。B地点は今回の調査地付近にあたり、6世紀中頃の須恵器、脚付壺などが表採されている。C地点では、円筒埴輪が0.8m間隔で数基並んで確認されている。

D地点からは直径1m前後の土坑がみつかり、5世紀の須恵器が出土した。この土坑は、遺物を囲んで円形に石を並べた簡易な石組みがなされ、形状や周囲の地形から祭祀遺構の可能性が指摘されている。また、芝崎山山頂から西に向かって尾根を下り、峠を越して八丈岩山に向け尾根を少し上った地点でも祭祀遺構の可能性が推察される土坑が確認され、鉄製鎌、須恵器、土師器が出土している。

このような遺跡のあり方から、八代山周辺は姫路平野の祭祀空間という位置づけが想定され、早くから注目を集める場所であった。

参考文献 加藤史郎 2010「八代山古墳群」『姫路市史第七卷 下 資料編 考古』姫路市

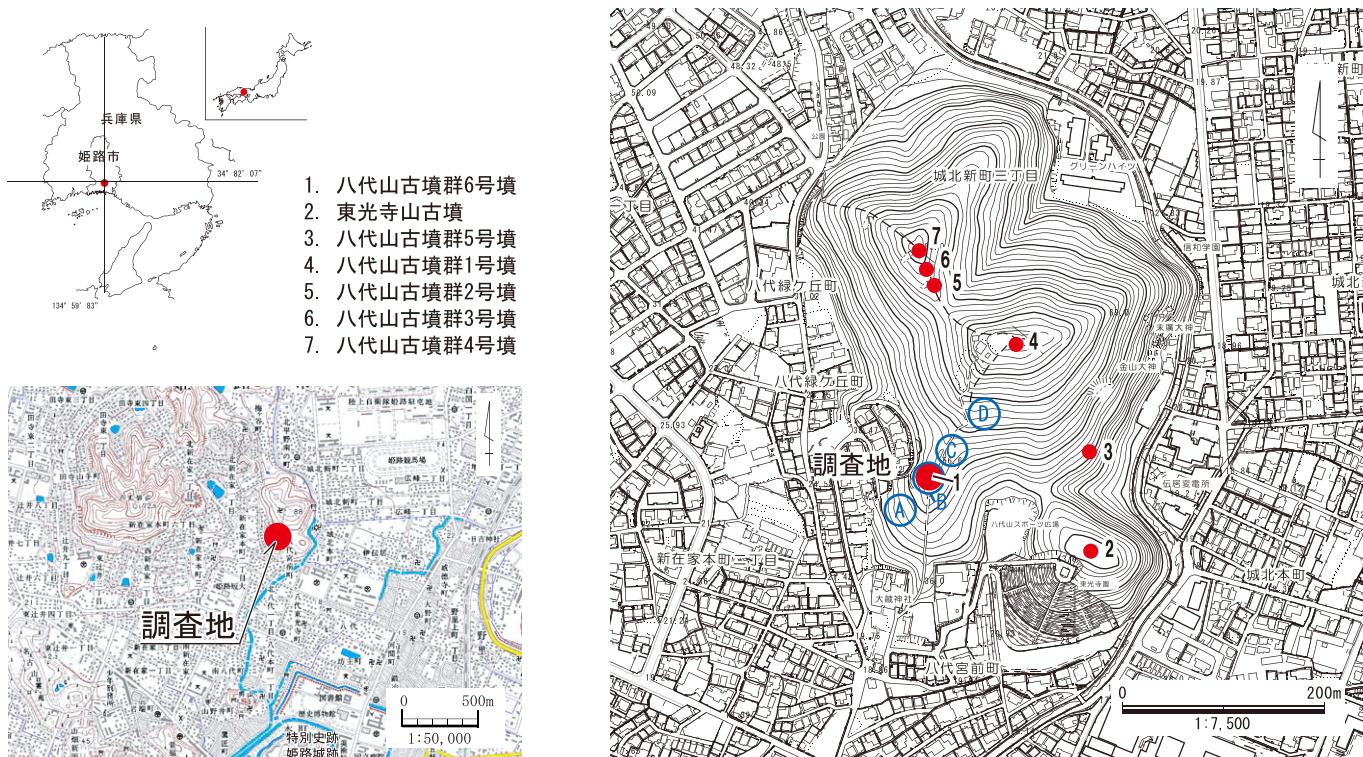


図1 調査地の位置と周辺の遺跡

3. 調査の成果

現地表面から表土を約20cm掘り下げた標高54.4m付近で、岩盤及び岩盤が風化し土壤化した土層を検出した（図2-a層・2層）。この面で遺構検出を行ったところ、近・現代のタイル片を含む攪乱穴を確認したが、古墳に関連する遺構は全く検出できなかった。また、遺物も全く出土しなかった。

4. まとめ

調査地周辺は、現況測量では平坦面の先端部に比べて奥側が約20cm下がっており、古墳の墳丘状を呈する。しかし、今回の調査範囲内では古墳の存在を示す痕跡は確認できなかった。

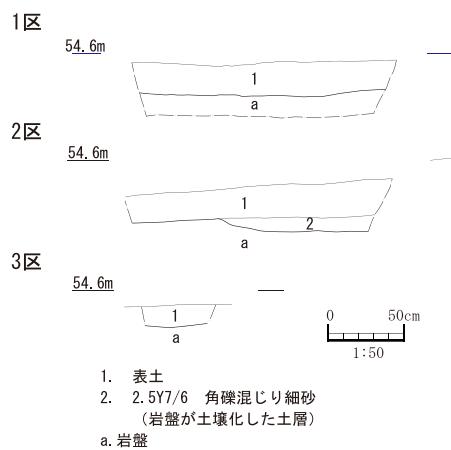


図2 調査区断面図 S=1:50

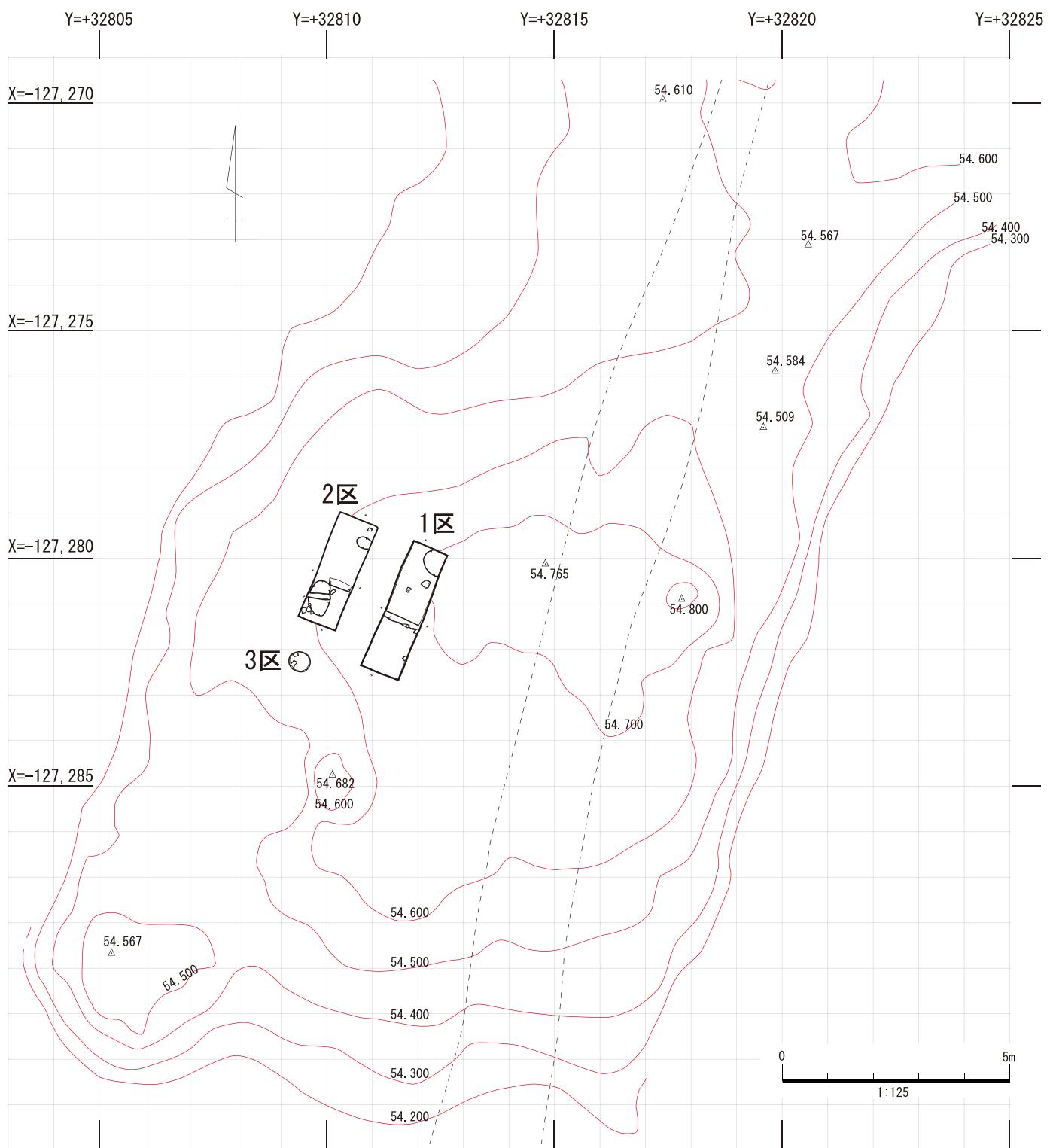


図3 調査区平面図・周辺地形図 S=1:125



調査区全景 北から



1区断面 南から



2区断面 南から



3区断面 北から

報告書抄録

| | | | | | | | |
|---------------|--------------------------------|-------------|-------|--------------------|--------------------|---------------------------|---|
| ふりがな | やしろやまこふんぐんろくごうふんかくにんちょうさほうこくしょ | | | | | | |
| 書名 | 八代山古墳群6号墳確認調査報告書 | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第17集 | | | | | | |
| 編著者名 | 小柴治子 | | | | | | |
| 編集機関 | 姫路市埋蔵文化財センター | | | | | | |
| 所在地 | 〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1 | | | TEL (079) 252-3950 | | | |
| 発行年月日 | 平成26年(2014年)3月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | やしろやまこふんぐんろくごうふん 八代山古墳群6号墳 | ふりがな 所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 |
| 市町村 | | 遺跡番号 | 28201 | 34° 85' 20" | 134° 69' 21" | 2013.8.6 ~ 2013.8.8 | 6 m ² 携帯電話 無線基地 局設置 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | | 遺跡調査番号 |
| 八代山古墳群6号墳 | 古墳 | 古墳時代 | — | — | | | 20130199 |

一例言一

1. 本書は、兵庫県姫路市八代宮前町1021番7に所在する八代山古墳群6号墳(遺跡番号: 020178)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、KDDI株式会社からの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。
3. 確認調査(調査番号: 20130199)は、姫路市埋蔵文化財センター 小柴治子が担当した。
4. 整理作業は、平成25年度に姫路市埋蔵文化財センターにて実施した。
5. 発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位はすべて座標北である。また標高は東京湾平均海水準(T.P.)を基準とした。
6. 図1は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「姫路北部」を使用した。
7. 土層名は、『新版標準土色帳』(1999年度版)に準拠した。
8. 本書の執筆・編集は、小柴がおこなった。
9. 本報告に関わる写真・図面等は姫路市埋蔵文化財センターに保管している。

| |
|------------------------------|
| 姫路市埋蔵文化財センター調査報告 第17集 |
| 八代山古墳群6号墳確認調査報告書 |
| 集 姫路市埋蔵文化財センター |
| 〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元 414番地1 |
| 発 行 姫路市教育委員会 |
| 〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地 |
| 発 行 日 平成26年(2014年)3月31日 |
| 印刷・製本 松尾印刷株式会社 |
| 〒671-0222 兵庫県姫路市別所町小林494 |